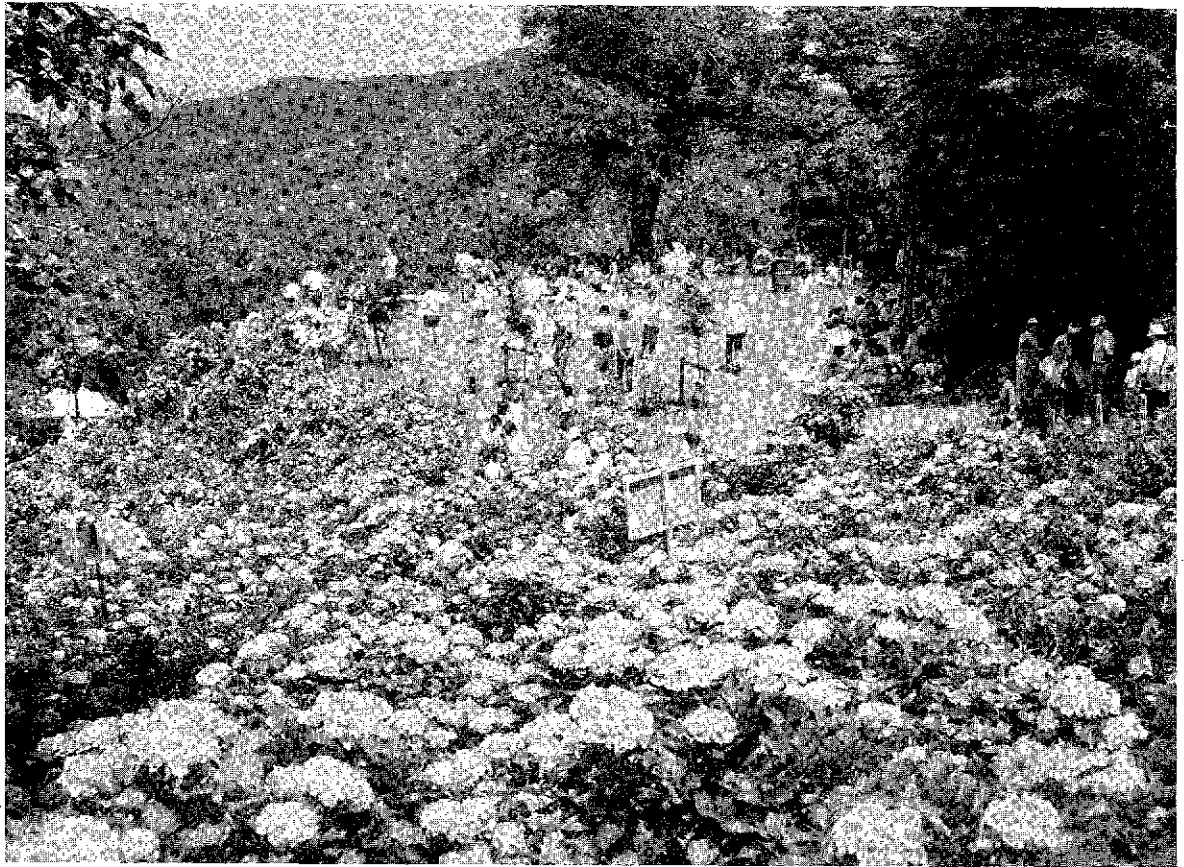


新潟県

平成4年

# 公民館月報

6月  
第472号



紫陽花や

白よりいでし

浅みどり

(水巴)

あじさいは、あす(集まる)、  
さい(藍色)から生まれた語と  
いう。

花が開いてから順に、色彩が  
変化するところから、七変化と  
か、八仙花などの名がある。

田上町観光協会では、三万株  
のあじさいを誇る護摩堂山で、  
今年も七月五日を中心に、あじ  
さい祭りが催され、多彩な行事  
が繰り広げられる。

(写真・資料提供)  
田上町公民館

# 新陣容の平成四年度役員

## 事業の刷新化に期待

去る四月二十四日に開催された第一回評議員会において、当県公連の役員改選が大きな議題であったが、会長の選出のみにとどめた。(会長細川正博氏)新潟市中央公民館長(既報)

副会長・監事の選任ならびに理事委嘱については、上中下越地区公連の組織役員と連動することを申し合わせて、個人名は保留されていたものである。このほど、各地区公連の役員会が開催され、それぞれの県公連役員が選任、推薦された。

大滝正見(三島町) 榎本泰伸(新津市) 熊谷工(燕市) 山田佐一(赤泊村) 評議員は左表のとおり。以上役員が全員出そろったことにより、新陣容による当県公連のより一層の活性化が期待されよう。なお、編集専門委員には表2の諸氏が委嘱された。

副会長 金子安三(名立町) 千原昭夫(柏崎市) 佐藤久恵(山北町) 山川資郎(糸魚川市) 瀬戸満雄(新井市) 大野敏夫(見附市)

監事 成澤 強(下越) 副会長 田畑耕一(上越地区公連会長) 小林秀夫(中越) 会長 成澤 強(下越) 副会長 金子安三(名立町) 千原昭夫(柏崎市) 佐藤久恵(山北町) 山川資郎(糸魚川市) 瀬戸満雄(新井市) 大野敏夫(見附市)

理事 山川資郎(糸魚川市) 瀬戸満雄(新井市) 大野敏夫(見附市)

### 平成4年度 新潟県公民館連合会役員名簿

郡市名	役職名	氏名	所属公民館
下越地区	会長	細川正博	新潟市中央
	副会長	成澤 強	新潟市中央
	理事	榎本 敏	新津市中央
		鈴木 敏	村上中央
	理事	熊谷 和夫	燕市中央
		熊谷 和夫	五泉市
	理事	熊谷 和夫	白根市中央
		熊谷 和夫	豊栄市中央
	理事	熊谷 和夫	紫雲寺町中央
		熊谷 和夫	村松町
理事	熊谷 和夫	巻町	
	熊谷 和夫	津川町	
理事	熊谷 和夫	山北町	
	熊谷 和夫	赤泊村	
中越地区	副会長	小林秀夫	岡市中央
	理事	小林秀夫	三条市中央
		小林秀夫	柏崎市中央
	理事	小林秀夫	小千谷市
		小林秀夫	加茂市
	理事	小林秀夫	十日町市
		小林秀夫	見附市中央
	理事	小林秀夫	栃尾市
		小林秀夫	米町
	理事	小林秀夫	三島町
小林秀夫		湯之谷村	
上越地区	副会長	田畑耕一	上越市立
	理事	田畑耕一	糸魚川市中央
		田畑耕一	新井市
	理事	田畑耕一	松代町
		田畑耕一	大潟町
	理事	田畑耕一	大潟町
		田畑耕一	名立町
	理事	田畑耕一	名立町
		田畑耕一	名立町
	理事	田畑耕一	名立町
田畑耕一		名立町	

表2 編集専門委員

横倉 章	上越市公民館副参事
坂上 利男	加茂市公民館長
楠 利雄	南蒲 栄町公民館長
小島 修一	新井市公民館長補佐
池田 忠義	新潟市北地区公民館社教主事
島田 重	県生涯学習推進課副参事

## 第33回関東甲信越静公民館研究大会案内

テーマ わが街にいきる公民館  
～くらしの中の生涯教育・その新たな展開～

- 主催 関東甲信越静公民館連絡協議会  
社団法人全国公民館連合会  
埼玉県教育委員会 埼玉県公民館連合会  
秩父市教育委員会 秩父都市公民館連合会
- 主管 第33回関東甲信越静公民館研究大会実行委員会
- 期日 平成4年9月3日(木)～4日(金)
- 会場 埼玉県秩父市 秩父宮記念市民会館ほか
- 分科会 右表参照
- パネル討議 テーマ「生涯学習と学校週五日制を考える」
- 参加費と申し込み方法
  - 参加費13,000円(内訳 宿泊1泊2食10,000円 資料・記録集 3,000円)
  - 参加希望者は、最寄りの公民館へ現金を添えて申し込んでください。各市町村公民館では、参加希望者を取りまとめの上、6月20日までに当県公民館連合会事務局へ申し込んでください。

	分科会	研究テーマ
対象別部会	第1分科会	乳幼児教育と活動
	第2分科会	少年の学習と活動
	第3分科会	青年の学習と活動
	第4分科会	成人男子の学習と活動
	第5分科会	女性の学習と活動
	第6分科会	高齢者の学習と活動
内容別部会	第7分科会	ボランティア活動
	第8分科会	地域づくり(郊外・町村)
	第9分科会	地域づくり(都市圏)
	第10分科会	健康づくり
	第11分科会	人権学習・同和教育
	第12分科会	国際理解・交流活動
	第13分科会	環境問題
管理運営部会	第14分科会	町村型公民館の管理運営
	第15分科会	都市型公民館の管理運営
	第16分科会	町村公民館の運営審議会
	第17分科会	都市公民館の運営審議会
	第18分科会	職員体制等の整備

### 生涯学習審議会中間まとめ公表

## 今後の社会の動向に対応した 生涯学習の振興方策について

去る五月十三日、国の生涯学習審議会から「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について(中間まとめ)」が公表された。そのポイントは、文部省・教育委員会の行政分野だけでなく、国の省庁、知事・市町村長部局の行政施策も視野に入れた幅広い施策を提言していることである。更に、家庭、学校、企業等、生涯学習関連団体へも呼び掛けており、国民の各階層への提言となっている。

全体で四部構成になっており第一部は基本理念を、第二部は当面取り組むべき四つの課題について、第三部は四課題についての充実・振興方策・第四部は生涯学習の振興に向けて国民各層への呼び掛けとなっている。

公民館の活性化が望まれている今日、私も公民館関係者もこの提言について格別の関心を持つ必要のあるもの。紙幅の関係から、ここでは、第一部の基本理念にふれ、公民館としてのあり方について考えてみる。

### 豊かな生涯学習社会を築いていくための基本理念

「人々が、生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が評価される生涯学習社会を目指すべき」と。そのために、社会の様々な教育・学習システムを総合的にとらえ、それらの連携を強化し、人々の学習の選択の自由を拡大し、学習活動を支援していくことが重要である」と述べ、社会教育施設や関連施設の連携・協力することの重要性が強調されている。したがって、公民館は、それら施設とのネットワーク化の中で、公民館は何が出来るか、何をしなければならぬのかを明確にして役割を分担することが求められよう。

また、公民館自体でも、中央公民館・地区館・分館等の役割分担や連携のあり方についての検討も重要となる。この課題も含めて、先に公表されている中間報告「公民館の整備・運営の在り方について」(平成3年6月)にそって、より一層の体制整備に務める必要がある。

### 当面充実振興のための四課題

- ①リカレント教育の推進。
- ②学習成果を生かしたボランティア活動の推進
- ③青少年の学校外活動の充実。
- ④現代的課題に関する学習機会の充実。

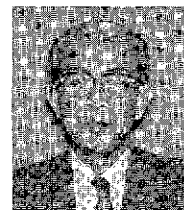
これらの課題を、公民館として考えるとき、①のリカレント教育はしばらく措き、②のボランティア活動に關すること。③青少年の学校外活動の充実や家庭・地域の現状への課題。④現代的課題に關する学習機会の充実について、など、公民館の関わりのあるものはきわめて多く、これらの諸課題に対し、公民館は、その可能性を十分に發揮し、公民館でなければ出来ない活動への取り組みが求められる。その意味での公民館事業の見直しとともに、より一層の施設設備等の整備に努める必要がある。

最後に問題となるのは、公民館等の施設の専門職員の体制整備・充実についてであって、強力なインパクトのある提言が欲しいことを痛感する。

(都合により「辛口」は休みました)

## 学習活動に思うこと

村山 又雄



公民館に行くのは、文化祭・文化講演会など、見たり聞いたりの年・二回くらいのものであった。時間が持てないというと言いつつ、実際は学習の認識と意欲がなかったと言う方が正しいかも知れない。

昭和六二年、「小須戸町史を読む会」のお知らせがあり、申込みしたので公民館通いの始まり、以来、俳句教室・拓本教室・表装教室の初心者講座に参加し、今でもそのグループで自主運営の学習を続けている。

出席することが楽しく、学ぶことが楽しい、六十の手習いというが、新たな生きがいを作る要素であることに間違いなく、気晴らしや、生活の張り合い、安らぎなど、生きる目標をもつことができると思っている。

講座・教室の開設・生涯学習に対するとりくみなど、「集い・学び・結ぶ」という公民館の指導には、あらためて敬意と感謝をもつものである。

## ひ る ば

このニーズに対応して、文化、団体の協力を得て、グループを指導者とした学習機会を、公民館主催で提供する。グループは指導者としての役割をもつことで活発に活動し、新しいグループも融合性が生まれ、和して輪が大きくひろがる。

公民館の「輪を大きくする学習活動」の実践に、大きな期待をもっているところである。

私も公運審を委嘱されて三年、まだその任を十分果たしてないが、学習活動で感じたことなどをふまえ、公民館活動が住民の学習意欲を高揚し、地域連帯の学習活動が一層活発になるよう努めたい。

(小須戸中央公民館 公運審副委員長)

謝をもつものである。公民館は、一つの講座・教室が閉級すると、自主運営を指導し、グループとしての活動を支援している。新に学習を希望する人には、そのグループへの参加を奨めているが、公民館主催の教室だと学習し易いという声もある。

ふれあいと対話が築く明るい社会

公民館実践記録シリーズ Part III

私の人生って何に!!

板倉町中央婦人大学の実際

はじめに

板倉町公民館

板倉町で婦人層に対する講座を設けたのは今から十五年前。初めは婦人学級として開設され近年になって『中央婦人大学』と名称を変えています...

問題の所在は

ここ板倉町も近年は、北部工業団地計画が進められ新しい息吹が感じられる昨今です。少し前までは農業中心の生活でした...

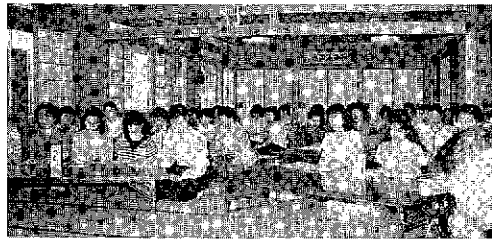
Table with 4 columns: 回数, 日, 時, 学習内容, 講師. It lists 7 sessions of the program.

人大学が近年参加者の漸減化傾向にあり、その対策に工夫をこらしています。

この、伝統ある中央婦人会(各集落ごとに結成され現在の総数九一〇名は存続しているものの、町の連合婦人会からの脱退が年々目立ってきてきました...

織を母体に進めてきた中央婦人大学でしたから、そこに問題の第二があります。

「あれ(脱退)以来、みんなが集まることもなく、何をするといいこともないので張り合いがない。」という声を耳にしました...



盛況な中央婦人大学

「身体を動かすことって楽しい」「これからも積極的に参加したい」などの声も聞こえて来ます。常にその時々声を大切に...

問題点は日程です。研修旅行だけは、日日程ですが他の学習はみな半日になっています。これは言うまでもなく学級生の殆どが勤めているからです。

その結果、参加者の中には、はじめは、あまり気乗りせずに参加していた方が、回を重ねるごとに「次は何をするの?」などと心待ちにしてくださる人...

このままにしておくと、いつか、ふと我にかえったとき、「さて、何をしようか」「自分の人生って何だったのだろう」と悩む人がでてくることでしょう。

学習内容は講義、講演、スポーツ、レクリエーション、調理実習、手芸工作、町内外研修旅行などバラエティに富んだプログラムにして、楽しい学習会になるように工夫しています。(表1参照)

おわりに このままにしておくと、いつか、ふと我にかえったとき、いつか、何をしようか」「自分の人生って何だったのだろう」と悩む人がでてくることでしょう。

から五十歳代。当然のことながら養育中の子ども年齢が小さくなるほど出席率が低下します。そうしたことへの配慮もあって、一人でも多くの方が出席できるようにとこのような形にしています。

「(板倉町社会教育指導員 渋谷房子記)

(社会を明るくする運動県実施委員会)

# 大和町公民館

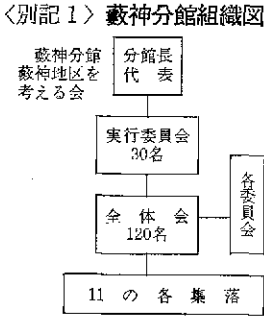
## 「まほろば」における活動

### 大和町公民館 藪神分館

薄れゆく住民の自治意識と連帯感の欠如は、地域の教育的機能さえも失って、いくと、う実感の中で、文字どおり地域ぐるみで地区の将来を考え、組織的な実践活動を展開している南魚大和町公民館 藪神分館を紹介し

#### 一、藪神地区の概況

藪神地区は、旧藪神村として町の西南に位置する水田単作地帯の農村地区で、小学校1、保育所2、集落数11、戸数約800戸、人口約4千人の地区です。むろん稲作のみでは生計は立てられず、そのほとんどが第二種兼業農家であり、近年地区内に企業誘致もあり、働く場所はおおむね確保されています。



#### 二、活動の拠点

「まほろば」の誕生もでてくる古語で、「美しくすぐれたよい地」という意味で、数多くの応募の中からこの分館施設の愛称として選ばれました。正に地域の人たちの思いが込められています。それでは「まほろば」の誕生の経過について述べてみます。

これまで藪神分館の施設は旧藪神村役場を改造した木造の老朽建物でした。地区センターの建設構想が具体化した六十年より、地区内に「建設検討委員会」を設置し、地域をあげてこれに取り組みました。この検討委員会、それより先に組織されていた「藪神地区を考える会」(別記図1)から委員会を発足させ、地区民のさまざまな意見を集約していきました。

委員の構成は、区長代表・町会議員・老人クラブ・農業青年・PTA・婦人会・役場職員等、二十五名から成りました。検討のすすめ方は、先ず委員それぞれが共通理解のための話し合いを徹底しておこない、地区内全戸にも検討資料を配布するなどの理解を求めました。

施設の面積等規模や機能、デザイン等についての構想をまとめ、町長に要望しました。結果として、面積の若干の減少の注文があったほかは、すべて要望どおり構想が受け入れられました。

この建設計画が地区のめざす方向を決定づけ、そこから「自分たちも地域づくりに参加している」という実感が生まれ、今後の地域活動に弾みがついたことは言うまでもありません。

その後、施設のシンボルとして、カリヨンの塔がつくられ、「カリヨン選出委員会」が構成されました。委員長は主婦で、コーラスクラブを中心に選曲をおこないました。

三、活動の積み重ね  
 従来、ともすると施設が出来るまでは、検討・研究を重ねますが、完了して一段落すると潮が退くように元のしづけさに戻るのが常で、特に「箱もの行政」といわれるのにこの傾向がありました。しかし、まほろばの活動は、そこをスタートとし、活動を積み重ねていったのです。

翌六十二年からは別記(2)のおりの教室、事業等がはじまり、又、秋の収穫祭を兼ねて「ふれあい祭」と称し、地区こそつてのイベントが毎年おこなわれていきます。年ごとの活動の歩みは別記(3)のとおりですが、その中で「やぶかみ音頭」の制作と、「夜なべのうた」文集の発行は、この地区の手づくりの活動のよさを遺憾なく表わしています。

#### 〈別記2〉「まほろば」の事業

川柳教室	1回	一般
俳句教室	1回	一般
茶道教室	1回	一般
焼き物教室	1回	一般
焼木彫り教室	1回	一般
ダンス教室	4週	小学生
ドーナツ教室	1回	小学生
縄跳び教室	1回	小学生
バス停掃除	4回	有高齢者
音語り会	1回	有高齢者
農業体験活動	1回	有高齢者
全市民朗読大会	1回	総合
町民朗読大会	1回	総合
盆踊り大会	1回	総合

この地区の手づくりの活動のよさを遺憾なく表わしています。「やぶかみ音頭」の制作については、地区民から歌詞を募集

し、三十年代に地域で教鞭をとっておられた方に作曲してもらい、テープにも吹き込んで地区内外にPRしました。

「夜なべのうた」文集は、昭和三十年半ばに地区婦人会が創刊したもので以来三十数年間休むことなく、引き継ぎ、書きつがれて来た「婦人たちの生活の記録」です。この文集を改元の年の平成元年を記念して一冊の縮刷版にまとめたものです。

大和町公民館藪神分館の活動は、それを取り巻く「地区を考える会」の組織がその原動力となっています。そこには、地域を愛し、地域のことを真剣に考える人たちがたくさんいます。そこに地域づくりの原点を見ることが出来ると思います。

(大和町公民館 係長 井口光雄記)

#### 〈別記3〉藪神分館の主な活動の歩み

S59年	藪神地区アンケート調査の実施 (地域課題の調査)
S60年	地区センター建設検討委員会 (12月基本設計を町に提出)
S61年	地区センター建設 3委員会設置 愛称選定委員会 カリヨン選定委員会 こけら落とし実行委員会
S62年	各教室の発足、 第1回まほろばふれあい祭り
S63年	花壇づくり、 映画「雪ふみ」のフィルム購入 資金調達芸術大会、 各集落巡回上映
H元年	第2回ふれあい祭り 花壇づくり、 よなべの歌発行 やぶかみ音頭の作成
H2年	第3回ふれあい祭り やぶかみ音頭の総合盆踊り大会 やぶかみ音頭のテープ作成
H3年	第4回ふれあい祭り やぶかみ音頭フェスティバル 藪神地区のビデオ撮影 第5回ふれあい祭り

## ふれあいと対話が築く明るい社会

## 社会を明るくする運動県実施委員会

井口光雄記

# 月報相談室

学校週五日制の実施を目前にして、公民館関係者の間では、「公民館の学校週五日制への対応」が関心の的である。公民館は、学校週五日制に向けて、何を要しなければならぬのか、今のままでいいのか。

このことを検討するにあたりまず、社会教育の対応について、ついで、公民館の対応をと順序をおって考えることにする。

さる三月、新潟県社会教育委員会議が、学校週五日制の実施に向けて「在学青少年に対する社会教育の在り方について」を提言した(以下「提言」という)。その「提言」の概要を公民館の側から受けとめることから進めよう。

## 学校週五日制の捉え方

「提言」では、学校週五日制の捉え方として、「子供の立場を中心に家庭教育、学校教育、社会教育の役割を改めて整理し見なおす視点」から捉える必要があるとしている。これは、単に子供たちに対する土・日曜の過ごし方をどうするのかという対症療法的な捉え方ではなく、家庭・地域の教育力の向上をねらいつつ、学校との三者がどのよ

うに連携し、協力できるかが学校週五日制の成否の鍵を握っているという点であろう。

つまり、家庭でのしつけや親と子のふれあいなどを通して、子供の自律心や、社会の一員としての意識をそだてること(家庭の教育力の向上)と、自由な友達づくりや社会参加活動などを通して、子供が主体的に自己形成を図っていきけるような地域

## 学校週五日制への対応(1)

公民館は何ができるか  
何をやらなければならないか

環境をつくりだすこと(地域の教育力の向上)を狙った三者の連携を導きだすことである。

## 学校教育と社会教育の連携

そこで、まず、学校教育と社会教育の連携についてであるが「提言」では、昭和40年代に論議された「学社の連携」にふれ、それが実質的に伸展しなかった原因について、「連携に係る指導者を学校の教師の活用 reliant しまった事であろう。つまり、子どもの意図的な仲間づくりを支え、プログラムを提供し、場

の確保をしてやれる指導者という学校の教師が最も適していると考え、学校の教師に、大きく社会教育と学校教育の連携の橋渡しを求めた結果、かえって学校に子どもの活動が集中する結果となってしまう」と分析している。そして、「今後は、学校教育と社会教育の役割分担の明確化を図った上で、各学校において、家庭、地域社会の持つ潜在的な教育力を生かした新しい時代にふさわしい学校づくり

に努めること」として「学校が本来の役割を越えて抱えこんで

第一は、公民館は社会教育の施設である。よって、社会教育(施設)の特性を最大限にいかした活用という点であろう。

第二は、社会教育の他の施設図書館・博物館・少年施設や、関係施設、児童館などの子供たちを取り巻く諸種の施設の一つという立場から、これらの施設との連携をとりながら、公民館としてやれることは何か、やらねばならないことは何かを考慮することであろう。

この点について「提言」は、「身近な校外活動の場としての

いる活動を段階的に地域に取り戻す努力が必要である。」と言っている。

くどいようだが、ここで念を押しておきたいことは、学校教育を補足するものとして、家庭教育や社会教育があるという学校中心の教育観を改めなければならないという点であろう。

公民館の立場から

それでは、公民館の立場から「学社の連携」を考えると、どのようない言えるのであろうか。

とは学校との連絡会議である。「学校との連絡会議」は学校と公民館との相互理解を深める観点で欠かすことの出来ない重要なこととなる。それだけに会議の時間をどう確保するかなど、難しい問題が待っているが、両者の英知によってクリアーして欲しいものである。さもないと、これまでで言われてきたような「言葉だけの学社連携」に終わってしまうであろう。

社会教育と家庭教育の連携

「提言」では、今日の家庭状況について「植木鉢化した家庭」という言い得て妙なる表現で問題を指摘し、具体的な提言をしている。

これらの提言について、公民館にあつては、すでに、公民館の事業として取り組んでいるものが少なくなく、それなりの成果を得、評価もされているところである。したがって、極言すれば、従前の事業を自信をもって進めていくことであろうと思う。ただし、その事業が、相互の連携や協力の面からみて、あるいは、事業の実績からみて、十分な成果を挙げているかどうかの検討が必要なのは論を待たない。(上村)

ここに指摘を受けたように、公民館は、施設・設備の見直しや整備の充実とともに、少年対象の事業を見直すことから始めて、次号で詳細について触れる予定であるが)その際大切なこ



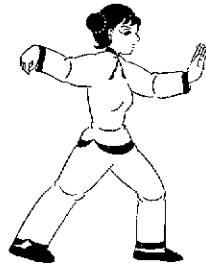
# サークル交流

太極拳はあなたにとって何？ 糸魚川太極拳同好会

○ライフワークの一つ、普段の体の使い方、くせに気づかされる。

○生活の一部、気持ちがおちつくと、やらないと淋しい。体の緊張がとれる。

○よくは分らない。でも一連の動きをしていると雑念がなくなり、集中できる。体力もつきバランス感覚がよくなった。等々……。



とした動き。それに呼吸意識をつなげていく太極拳は、奥が深く、みためよりハードさがあり、三十歳代と六十歳代の仲間が月二回いい汗を流しております。発足して四年、体も心も徐々にほぐれて、会員の表情に明るさが見えてきました。「お互が先生」を合言葉に息長く続けたいと皆願っております。

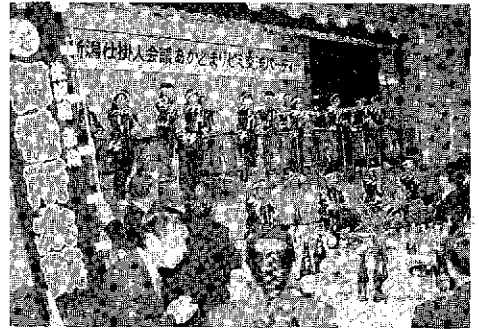
(田代 テル 記)

## 太鼓は心で打て

### 御番所太鼓の会

佐渡赤泊村に昨年発足しました太鼓グループで名称を「御番所太鼓の会」と言います。

赤泊は江戸時代、対岸越後と最短距離に位置したため、多くの人や物や文化が海の向こうから最初に到着する港町でした。その港に奉行所の赤泊番所が置かれ、村人はそれを「御番所」とよんでおりました。



わたしたちはその歴史を踏まえ、自分たちで創造し、文化の発信地となるよう「御番所太鼓の会」を結成し、鬼太鼓等村内に今も残る伝統的な祭り太鼓を基本として、御番所太鼓の創造をめざしております。

太鼓備品の購入には数千万という金額がかかりますが、幸い村当局のご理解により取り揃えていただくことができました。そして指導者には、世界的太鼓集団「鼓童」の方に来ていただき、太鼓の基本的な叩き方等を指導いただいております。

現在会員は男二名、女一四名計三五名の太鼓好きが集まります。年齢も二〇歳〜六〇歳まであります。今後は小中学生へ太鼓を広める活動をとがんばっております。(会長藤井正一記)

## 刈羽郡刈羽村中央公民館 社会教育主事

飯田 彰 二氏 (29歳)

刈羽村中央公民館に所属して二年目となる。高校時代からの希望として社会福祉の道を歩もうと決意し、東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科に進学した。

卒業後、地元の刈羽村役場に就職し、希望実現の場と機会を得た。



総務課一年、税務課四年を経て平成三年四

月一日に本望の職務に腕を振るうこととなった。

近隣の公民館で大学の社会教育学科を専攻し、社会教育主事として専門職を擁するところは数少ない。

本館に、公民館活動の推進役として適材適所、大いに期待でき、恵まれた刈羽公民館である。二十九歳の若さ、住民のニーズにこたえ、笑顔に接すること、少林寺拳法三段の腕前を生かし、指導することを喜びとし、日夜情熱を傾けている。

(刈羽村中央公民館長 廣川唯一記)

## 素顔 拝見

### 柏崎市中央公民館主査

鳥島 一 弘氏 (33歳)

佐渡トライアスロン大会第五位の実績を持つ「アイアンマン」今年も上位入賞をねらい多忙な公民館業務のあい間をぬって秘かな練習を欠かさない。

大学体育学部卒のスポーツマンで各種目の指導にも当り、その秘めたる情熱は、仕事の上にも常にそそいでいるという男である。決断と実行力は知る人ぞ知るところ。

公民館主査として勤めること今年で四年目、頼られる公民館を目指して、市内22の地区公民



館の連絡調整の担当者として活躍中、22館中21人の女性地区指導員の信望も厚い。

公民館実践記録の作成など、ワークショップから印刷、製本まで全て自分でやっています。しかもその上にはプロ顔負けという特技を持つ重宝な男も、家庭では、二男一女の良き父親である。今後も公民館活動のリーダーとして頑張っています。

(柏崎市中央公民館事務局長 小林一省 記)

# ネットのフ

## ビデオの映像で啓発する 生涯学習の町づくり

### 金井町生涯学習課の取り組み

佐渡郡金井町の生涯学習課から「生涯学習の町宣言 プレゼンテーション」と題するビデオテープの恵贈を受けた。

金井町は県下の市町村にさががけて、これまでの社会教育課を生涯学習課に変えるなど生涯学習社会招来のために力を入れており、平成三年〇月には「生涯学習の町宣言」をなす町民あげて生涯学習の町づくりを進めている町である。

このビデオテープは、「生涯学習の町宣言」を町民に広く紹介し、生涯学習への理解と関心を深めるための、啓発教材として作成したものである。企画・制作は金井町教育委員会生涯学習課が当たり、編集は佐渡地区視聴覚ライブラリーによったものである。

映像は、登場する人物、関係施設などいづれも町内の身近に接するものばかりのため、親しみがあり極めて迫力のある内容になっている。とかく、難解にならぬ生涯学習の概念が、身近な映像で解説していること

から、分かりやすく町民対象の啓発教材としては極めて優れた価値の高いものと言えよう。

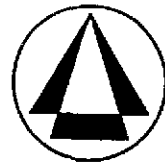
ちなみに、内容は、保育園児の和太鼓にはじまり、小・中学校の校内・郊外活動の紹介、図書館・博物館・公民館など施設での活動の紹介、団体の活動、さらには、地域公民館の活動の紹介にも触れるなど、きめ細かな活動の実態を紹介しており、金井町の生涯学習の実態、生涯学習の必要などが、構成と映像とナレーションによって巧みに

子供たちの幸せを求めて  
生涯学習時代のPTA  
社団法人 新潟県社会教育協会

生かされている。  
ビデオの映像による啓発教材づくりは他にもお薦めしたい手法である。関心のある向きは一度ぜひ視聴してみたいかがで

## 公民館車にシンボルマークを

片面 三千円でOK



「濃い緑の地に三角の「公」の字のマークを染め抜いた公民館車が、街の小

路、村の山道を走る姿を考えただけでも胸が躍る(月刊公民館新年号から)と投稿した楠利雄氏(南蒲栄町公民館長)は、公民館のシンボルマークをつける

すか。借し出しの申し込みは当県公連事務局へ申し込んでください。(VHS 35分)

新潟市川端町2-9 県林業会館内 新潟県公連事務局  
電話〇二五-二二四-一六〇七三

### あとがき

◆第二面に掲載の第33回関東甲信越公民館研究大会の案内、昨年までの「研究集会」から「研究大会」と名称が変更されました。わずか一字の違いではありますが内容が大きく変わっています。

開閉会のセレモニーにおいて公民館従事者の意気を示すものにしようというのです。つまり、研究ばかりでなく、内外に向けてアピールすることも取り入れようというものです。  
新しい試みに大いに期待を寄せて参加してください。(上村)

## 図書紹介



子供たちの幸せを求めて  
生涯学習時代のPTA  
社団法人 新潟県社会教育協会

このたび、新潟県社会教育協会から「生涯学習時代のPTA」というPTAガイドブックが刊行された。

PTAが単なる学校後援会化して久しく問題を投げている。加えて、学校五日制の実施に向けて、学校と家族の連携の重要な役割を持つPTAの在り方について、カラーや図表・イラストを多くとりいれ、平易な文章

で読みやすく書かれて  
いる。PTAの役員や会員ばかりでなく、公民館の関係者にもお薦めする好著である。  
平成4年5月8日初版発行、B6判、60ページ。価格200円送料実費。購入希望者は県社会教育協会事務局へ申し込みたい。(新潟市川端町二一九、県林業会館内、電話〇二五-二二四-一六〇七三)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 正博

編集人 事務局長 上村 捨二郎  
【定価1部130円 年共1,560円】